

# 令和7年度 校内研修計画

## 1. 研究テーマ

－意欲的に運動に取り組み、仲間と共に協力して課題を解決する児童の育成－  
～児童の困り感に応じた授業づくり及び協働的な活動を通して～

### 2. テーマ設定の理由

テクノロジーの進化によって、社会は急激に変わりつつある。技術の急速な発展は多くの新たな可能性をもたらす一方で、将来への不確実性も増している。このような時代において、学校教育では、変化の激しい社会を子ども達が生きていくために必要な資質・能力の育成が求められている。『小学校学習指導要領解説体育編』（平成29年告示、以下『解説体育編』）では、「豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、『知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』を育成することを目標として示す」としている。また、これらの資質・能力を育成するためには、「運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である」と示されている。体育の学習において、運動に親しむ中で、自己や集団の課題を見付け、仲間と共に協力して解決する過程を通して、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが重要だと考える。

本校では、沖縄県教育委員会より令和4年度から3年間「体育・スポーツ推進校」として指定を受け、体育の研究を推進してきた。これまで、運動の特性の面白さに着目した授業づくりや教具の工夫、また、用具やルール、練習の場など、児童が自ら選択することのできる「自己決定の機会」を学習活動の中に設定した結果、児童の意欲的な学習参加に繋がった。さらに、分析カードや思考ツール（タブレット端末・ホワイトボード・学習カード）を活用することで、課題を発見し形成する力が高まり、課題解決に向けて進んで話し合おうとする姿が見られた。一方、ゲーム・ボール運動の領域において、勝負に負けたことを認められずトラブルに発展したり、ルールやジャッジの曖昧さから相手を責めたりするような場面も見受けられ、仲間と良好な関係づくりが課題となった。

令和6年度に実施した体育に関する校内アンケート（第3学年から第6学年対象）では、10%の児童が体育の学習が好きではないと回答している。また「失敗を怖がらないで挑戦することができますか」の質問に対して、20%の児童が否定的な回答をしている。理由を尋ねると「苦手な運動種目がある」や「失敗することに対する不安」、「仲間とのトラブルが心配」等がきっかけとなり、体育に対する否定的な感情を抱いていることが分かった。

そこで本研究では、事前アンケート及び授業観察から児童の困り感を把握し、困り感に応じた授業づくりや教具の工夫を行う。また児童が不安に感じていることを拾い上げ、授業におけるルールや約束づくりを展開したり、肯定的な声かけを行ったりする。課題解決の過程では、前年度に引き続き、分析カードや思考ツールを活用することで課題形成・課題解決の支援を行う。対話活動の場面では、役割分担を行い、全児童の発言を保障する。そうすることで、児童が意欲的に運動に取り組み、仲間と共に協力して課題を解決することができるかと考え、本テーマを設定した。

### 3. 研究仮説

体育の学習において、児童の困り感に応じた授業づくりを行い、協働的な活動を工夫することで、児童の運動の意欲を高め、仲間と共に協力して課題解決に取り組む力を育むことができるであろう。

### 4. 研究主題について

#### (1) 意欲的に運動に取り組むとは

スポーツ庁「子供の運動習慣形成と体力向上に向けた取組について」(令和6年12月)では、「生活全体を通じて少しずつでも運動機会を確保し、運動好きな子供や日常から運動に親しむ子供を増やすことを目指して、発達段階や子供の多様なニーズを踏まえた取組や、運動意欲を引き出す授業づくりを推進する」と述べている。また、小学校学習指導要領(平成29年告示)体育編では、配慮する事項の中で、「特に運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する」ことを示し、体育科の目標の実現を目指している。体育科の目標の実現に向けて、体育の授業改善や体力向上の取り組みを推進し、児童の運動意欲を高めることが求められている。

白旗(2019)は、「体育・保健体育科では、運動への取り組み方について『進んで(意欲的に)』『積極的に』『自主的に』『主体的に』とステップを整理している(図1)。小学校の体育では、まず『意欲的に』運動へ取り組めるように子どもを誘いたい」と述べている。児童の運動意欲を高めるためには、運動を通して楽しさ(運動そのものの魅力)や喜び(成就感)を味わう経験が重要である(図2)。そのために運動が持つ魅力(技への挑戦、競争など)を引き出せるように教材を工夫し、運動することの喜び(技や学びの習得、記録の達成など)を感じられるように児童への手立てを構築することが必要だと考える。

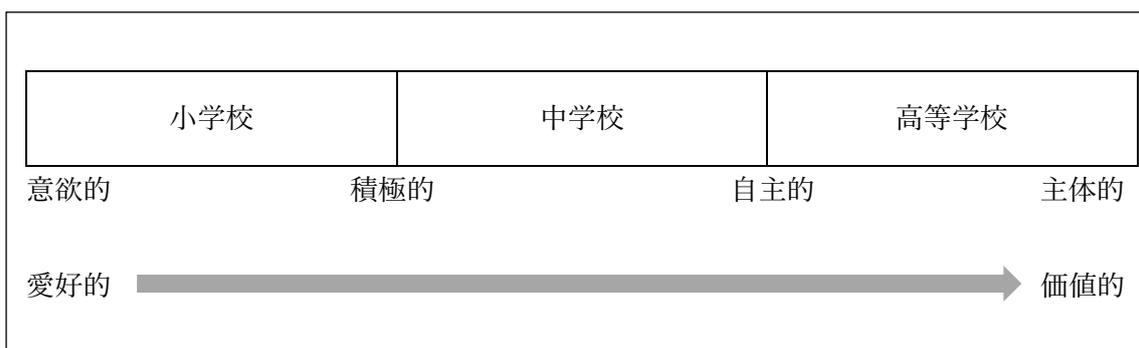


図1 運動への取り組みステップ

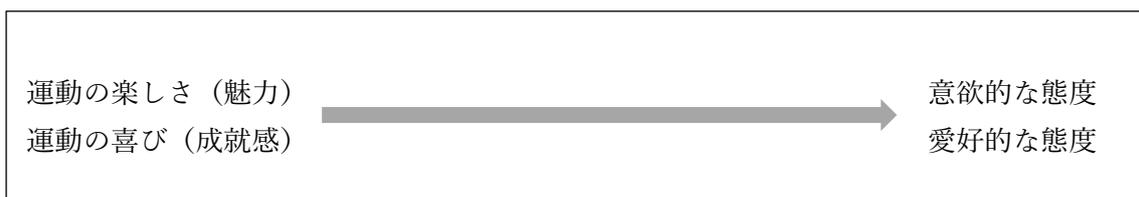


図2 運動の楽しさや喜びを味わい運動意欲を高める

## (2) 仲間と共に協力して課題を解決するとは

小学校学習指導要領総則編（平成 29 年告示）では、「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」と示されている。また、スポーツ庁「令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」では、児童生徒が「体育・保健体育の授業を楽しんでいるとき」として、『『できなかったことができるようになったとき』、『友達と交流したり、協力できたとき』と回答する割合が多い。」と示されている。仲間と共に協力して課題を解決する経験は、社会的変化を乗り越えるために必要なスキルを高め、さらに体育学習への愛好的な態度を育むことにつながると考える。以下に体育の授業における「協働的な学習の場面」を整理した（表 1）。協働的な学習を促すためには、「やってみたい」「話し合いたい」「解決したい」「交流したい」といった意欲の高まりが重要である。そのためにも「運動との出会い」「問いや課題の設定」「場や教具の工夫」「仲間同士の肯定的な態度や言葉がけ」を大切にした授業づくりが必要であると考え（図 2）。

表 1 協働的な学習の場面

気付いたことや発見したこと、学んだこと等を全体に発表する。
全体で、お互いの考えや振り返りに触れる。
全体でいくつかの動きを比較する。
ペアや小集団（グループ、チーム）で意見を交流する。
ペアや小集団（グループ、チーム）で遊びを考える。
ペアや小集団（グループ、チーム）で動きをつくる。
ペアや小集団（グループ、チーム）で体の動きを高める。
ペアや小集団（グループ、チーム）で作戦を考える。
ペアや小集団（グループ、チーム）で課題を設定する。
ペアや小集団（グループ、チーム）で動きを見合い、事実を伝える。
ペアや小集団（グループ、チーム）で課題解決に向け練習をする。
ペアや小集団（グループ、チーム）で補助をしながら練習に取り組む。
ペアや小集団（グループ、チーム）で交流して、表現したり踊ったりする。

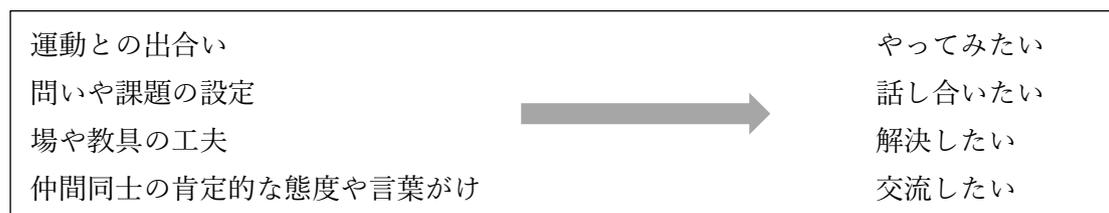


図 2 協働的な学習を促すために大切にしたいこと

## 5. 研究の方針

- (1) 研究テーマや研究内容・研究計画については、全職員の共通理解のもとに推進する
- (2) 研修は、校内研修日や年間の計画に沿って行う。(原則として月1回)
- (3) 分科会(低・中・高学年)を設け、学年担任以外の教諭は、各分科会に属するものとする。
- (4) 授業研究会について  
研究仮説を意識した研究授業を実施する。
  - ①全体授業研究会(主事招聘・講師招聘授業)を年間2～3回実施する。  
(初任研対象者は除く)(1回は保健領域の授業を実施)
  - ②全体授業研以外の学級は、年間1回以上の公開授業を行い、学年メンバーで授業の振り返りを行う。尚、他学年の参観も可とし指導案(本時のみ)は全員分用意する。
- (5) 研究テーマに関する教科以外の研修も実施し、教師の指導技術の向上に努める。
- (6) 行政研修、その他校外での研修の機会を多く持ち、全職員の共有化を図る。
- (7) 学びプロジェクト部会(研究推進委員会を兼ねる)を置き、必要な内容を話し合う。  
(メンバー…学推主任・研究主任・授業改善リーダー、隣学年1名)  
※各学年主任・分科会代表は必要に応じて参加する。

## 6. 研究内容

- (1) 研究テーマや研究内容についての理論研究。
- (2) 年間指導計画の実施及び改善(重点化・弾力化・系統化)。
- (3) 単元を見通した指導計画の作成。
- (4) 運動の特性を生かした教材・教具の研究。
- (5) 発問の研究(子どもの中に「問い」が生まれる発問、思考が広がる発問、学びが深まる発問)。
- (6) 声かけの研究(肯定的フィードバック、矯正的フィードバック、励まし)。
- (7) 協働的な活動についての研究。
- (8) 学習意欲を高めるための学習環境の整備。
- (9) 全学年系統性をもった授業スタイルを確立するための研究。
- (10) 評価の研究(発言・ノート・ワークシート・ポートフォリオ・パフォーマンス評価・自己評価等)。
- (11) 児童の実態把握(事前アンケート)。
- (12) 指導前後のアンケートを活用した授業評価(指導と評価の一体化)。
- (13) 家庭や地域社会との連携を図った学習指導。

## 7. 研究方法

- (1) 実態把握(校内アンケート、新体力テスト、学級アンケート、授業の見取り)
- (2) 理論研究(講師を招聘した校内研修、校外研修への参加)
- (3) 授業実践(全体授業研、隣学年研、学年研、1人1授業)
- (4) 仮説検証及び考察
- (5) 成果と課題(校内アンケート、学級アンケート、職員アンケート、授業の見取り)

# 8. 令和7年度研究構想図

## 船越小学校教育ビジョン

重点課題：目的意識を持ち、様々な人と協働し、課題解決ができる児童を育成する

### 【学校教育目標】

- かしこい子（知）
- 心豊かな子（徳）
- たくましい子（体）

### 【児童の実態】

- 体育の学習が好きな児童94%
- 1日の運動・スポーツ実施時間30分未満の児童25%
- 50M走（すばやく移動する能力）に課題がある。

目標と児童の実態

### 目指す児童像

#### 低学年

各種の運動遊びに進んで取り組むことができる。  
運動遊びで工夫したことを他者に伝えることができる。

#### 中学年

各種の運動に進んで取り組むことができる。  
運動や健康に関する課題を見付け、その解決のための方法や活動について工夫したことを他者に伝えることができる。

#### 高学年

各種の運動に積極的に取り組むことができる。  
自己やグループの運動や健康に関する課題を見付け、その解決のための方法や活動について自己や仲間が工夫したことを他者に伝えることができる。

### 主題設定の理由

- 児童の困り感に応じた授業づくりを行うことで運動への意欲を高め、進んで体育学習に取り組むことができるようにするため。
- 協働的な活動を通して、仲間と共に協力しながら課題を解決する力を育むため。
- 苦手意識を克服し、運動に対する愛好的な態度を育むため。

## 研究主題

意欲的に運動に取り組み、仲間と共に協力して課題を解決する児童の育成  
～児童の困り感に応じた授業づくり及び協働的な活動を通して～

## 研究仮説

体育の学習において、児童の困り感に応じた授業づくりを行い、協働的な活動を工夫することで、児童の運動の意欲を高め、仲間と共に協力して課題解決に取り組む力を育むことができるであろう。

児童の困り感に応じた授業づくりに向けて 協働的な活動の工夫に向けて

- ① 児童の実態把握
- ② 教材・教具の工夫
- ③ 運動の場やルールの工夫

- ① キラリタイム・チームタイムの設定
- ② 分析カード・思考ツールの活用
- ③ 体育科における言語活動の充実

## 9 研究組織と活動内容

### 組織図



### 活動内容

組織名	活動内容
研究推進委員会 (学びプロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画の検討、研究の推進</li> <li>理論研究、研究内容の検討</li> <li>本年度の研究の反省及び次年度の研究計画の検討</li> <li>全体会への提案事項の検討</li> <li>全体授業研究会の計画検討</li> </ul>
研究主任・研究副主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究全般についての企画、運営</li> <li>外部人材との連絡調整</li> <li>研究推進委員会、全体研修会、全体研究会への提案</li> <li>授業研究会会場の準備</li> <li>分科会との連絡調整</li> <li>資料の収集と提供</li> </ul>
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の計画や研究内容、推進上の諸問題についての研究協議と共通理解</li> <li>理論研究、実技研修</li> <li>各種研修会からの伝達講習</li> <li>全体授業研究会の実施</li> <li>実践活動の評価</li> </ul>
分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体授業研における協力や情報交換</li> <li>教材研究、指導案作成、資料作成</li> <li>隣学年授業研究会 (運営・記録・反省)</li> <li>学年の授業研究の実践及び研究、まとめ</li> <li>児童の実態把握</li> <li>教材研究、指導案作成、資料作成</li> <li>年間指導計画の作成、見直し</li> <li>教材、教具の開発、準備、保管</li> <li>児童、保護者、職員の意識調査の実施、集計、分析</li> <li>校内研修に関する掲示教育、環境の整備</li> <li>研究授業や日々の活動記録の保管 (ノート記録、写真、動画等)</li> </ul>